

2020年7月7日

## 父の日を迎えて（2）——新島先生にとってのアメリカの父・ハーディー（1）

副校長 竹山 幸男

7月に入りました。梅雨に入り、比較的晴れの日が多く続いていたかと思っておりましたが、雨の日が多くなり、梅雨前線も活発になり、日によってはかなり強い雨の日も続いています。

これからしばらく、全国的にも局地的な大雨が降る場合がありますので、注意してください。特に、九州の熊本、球磨川が氾濫して、多くの被害が出ています。ある日の短時間に降る雨の量が、その場所の数か月分あるいは1年分の降雨量に匹敵するようなものとして紹介されています。住民の方々も「こんな雨は生まれてから経験したことがない」と話されます。2018年7月の西日本豪雨の被災地・岡山県真備町を訪ね



国際宇宙ステーションから見た九州（写真：<https://iss.jaxa.jp/iss/>より）

たことがあります。ほんの数メートルの堤防が決壊することによって、そこから川の水があふれだし、そして街中を水没させてしまう様子を見聞きすることで、本当にそのすさまじさに身震いしたことを思い出します。地球温暖化による気候の変化が私たちの生活にも深くかかわっていることを知るとともに、森林管理が不十分で森の荒れが進み、森の保水力が低下していることも、豪雨の被害をもたらす要因になっているようです。今年は、感染症状況の下での避難、懸命の救助、救出、そして豪雨の後の湿度の高い暑さの中での復旧作業等が続く現地の方々の上にも、引き続き見守りと必要な助けがあることを皆さんとともに祈りたいと思います。関西、東海エリアについても、梅雨の終わりに向けての大雨が予報されています。皆さんのお住まいの地域に気象警報が出た場合は登校を見合わせてください。（欠席扱いにはなりません。）また、同志社中学校所在エリアに気象警報が出た場合については、生徒手帳32ページをご覧ください。また、熱中症を防ぐため、登下校においても水分補給を十分に行うよう気をつけてください。

今週、7月第2週目については、現在の感染症の感染状況については、関西エリアで少し感染者が出始めている状況が見られますが、通勤通学時間帯の感染リスクを避けるために、時差登校、下校を継続することにより、週5日の登校を行います。翌週（7月13日～）については、感染拡大傾向が大きく見られると学校として判断した場合には、学年ごとの隔日登校日を設定する予定です。（7月13日～の予定につきましては、7月10日の学校HPで発表予定です）なお、7月最終週を含め、7月中の予定の詳細については、学校のホームページをご覧ください。体調面、その他さまざまな事情で登校することができなかった生徒の皆さんは、7月の第2週も、「学習ポータルサイト」を用いた学びを基本に据えて、各教科の学びの内容、生徒の皆さんとのやり取りを継続させていただきますので、これまでに引き続き、しっかりと取り組んでいただきま

すようお願いいたします。特に、今年の1年生の皆さんは、100年に一度というような感染症の状況がありますので、まだまだいろいろと学校の様子がわからないことも多いかと思います。生徒の皆さんからの質問、相談については、教科の内容であれば教科の先生へ、学校についての相談であれば担任の先生へご遠慮なくご連絡ください。これまでもお知らせしている通り、これまでの4か月間と直近1週間の日本の状況と対応、海外の状況と対応、そして、医療関係の専門家の方々の提言など、さまざまな状況を総合的に考慮すると、6月については感染状況が比較的落ち着いていましたが、感染症の今後の状況については、まだまだ予測が難しい状況が続くものと思われます。同志社中学校では、中学生という発達段階での健康面への配慮や、京阪神はじめ近畿圏、ならびに愛知、岐阜などからも新幹線通学で通っておられる生徒の皆さんも多くおられことも考慮しつつ、生徒のいのちと健康を守ることを最優先にしながら、学校としての対応を慎重に検討しております。今後の感染状況の推移（緊急事態宣言解除による緩み、第2波への警戒など）に注視しながら、7月中も最新の状況を反映したかたちで週ごとに登校日の設定を考えていきたいと考えておりますので、ご理解と御協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

第13週目（7月6日～7月10日）は、これまでの取り組みに引き続き、動画を用いた課題の提示、提出、メールでの質問を継続しますので、生徒の皆さんも取り組みを続けてください。7月6日からの1週間についても、さまざまな事情で登校ができない生徒の皆さんを対象に、教科によってはzoomを用いての学び面談がありますので、予定については、教務部から案内の面談予定表をご覧ください。

なお、生徒の皆さんに夏休みに取り組んでいただく自由研究に向けたオリエンテーション、準備も今進められています。1年生の皆さんは、取り組もうと考えている自由研究のテーマについての登録期間をほぼ終わられました。実際の取り組みに向けて、さらにテーマの問いを深め、どんなかたちで取り組みまとめるかについて、入学時にお渡しした「きさきげ」や5月30日の学習ポータルサイトを見ながら、夏休みの取り組みに向けてイメージをふくらませておいてください。図書館の先生から紹介された本についても、見つからなかったりわからなかったりする場合には、引き続きメールまたは登校日に図書館の先生にお尋ねください。2・3年生に皆さんの登録をすませた今後の予定については、7月に入ってから教務部の担当の先生から連絡がありますので、しばらくお待ちください。

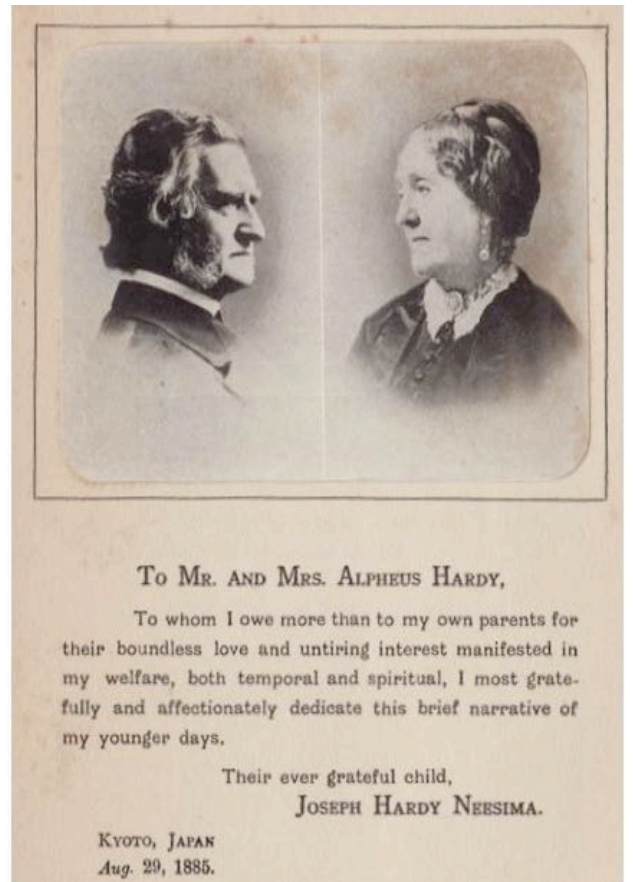
日ごろの担任の先生からの連絡、面談については、その都度レスポンス（応答）していただき、皆さんの日頃の様子などを知らせてください。健康観察については、引き続き保健室の先生あてご提出ください。特に、来週も登校日が継続しますので、健康観察をしっかりとさせていただき連絡をよろしくようお願いいたします。第13週目の詳細については、別途ホームページ上の教務部より「第13週目のお知らせ」または学習ポータルサイト上の生徒ページ・生徒伝達に「第13週目のお知らせ」をご覧ください。機器（iPad）やアプリの使い方で不明な点があれば、「学習ポータルサイト」（→ [生徒ページ] → [在宅学習サポート]）にアドバイスや解決方法を掲載しています。また、「2020年度版ICT活用・情報倫理ハンドブック」（同志社中学校）の1～28ページに、課題提出で用いているロイロノート、zoomの利用方法を含め、iPadでの

学習に際してのさまざまな活用ガイドが掲載されていますので、取り組みの際には、引き続き参照するようにしてください。

\*\*\*\*\*

さて先週は、6月第3日曜日の「父の日」にちなんで、アメリカ留学時代の新島先生の父・民治への手紙などから、新島先生のお父さんに伝えたかったことを学んでみました。今週もまた、新島先生の手紙や説教などから、アメリカでのお父さんであるハーディーさんについて学んでみたいと思います。

4月からこれまでのお話の中からも、同志社の創立者・新島先生の生き方をかたちづくったのは、脱国してからのおよそ約10年間のアメリカ時代の体験がその中核にあり、その中でも、ハーディー夫妻との出会いと夫妻による導きがその後の歩みを決定づけていることがわかってこられたと思います。今年の同志社中学校の年間聖句（イエスは言われた。「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」「隣人を自分のように愛しなさい。」（マタイによる福音書22章37節、39節）「受けるよりは与える方が幸いである。」（使徒言行録20章3節））にもあるように、ハーディー夫妻の「隣人愛」から生まれた具体的な行為を新島先生は直接受けることによって、フィリップスアカデミー、アーモスト大学で学費、生活の心配なく、学びに取り組むことができました。



ハーディー夫妻に宛てた、新島先生の手紙は、愛と感謝に溢れている

そして、新島先生のキリスト教信仰もまた、ハーディー夫妻の紹介したフィリップスアカデミーの留學生活でお世話になった、フrint夫妻やヒドゥンさん、そこで通った学校、教会などの中で養われたものであり、そのことをアメリカの父、母であるハーディー夫妻に一つひとつ細かいことも含めて手紙で報告しています。つまり、新島先生は、精神的にも経済的にも、Joseph Hardy Neesima（ジョセフ・ハーディー・ニイシマ）として、ハーディー家の一員としての自覚を養っていったと思われます。

ハーディーが、脱国してアメリカに上陸していた新島先生と初めて出会った時、次の聖書の箇所が心に浮かんだと言います。（石塚正治「新島先生言行録」157ページ）マタイによる福音書25章31節～45節、神様の前に立たされた「正しい人たち」と「そうでなかった人たち」のたとえ話です。イエス様がこれから最後のときを迎えようとしているオリーブ山での最後のお話として語られたもので、羊飼いが羊と山羊を見分けるように、神様が私たちを見分けられる

というものです。このたとえ話では、王様は、王様の前にいた正しい人たちに対して、「私が飢えていたときに食べさせてくれた。私がのどが渴いていた時に飲ませてくれた。私が旅をしていたときに宿を貸してくれた・・・」と感謝の言葉を次々と語りますが、語られた人たちは王様にそのようなことをした記憶が全くありません。なので、そのことを正直に答えるのですが、王様は意外な言葉を語ります。「はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。」(40節) 正しい人たちが、それまで困っていたり貧しさの中にある周りに人々に対して行った愛と思いやりで満ちた行動が、実は王様にしていたことなのだ、という応答です。そして、46節以下では、全く逆の話が展開されています。「王様にいろいろなことをしてあげた」と直接王様に自慢気に語りかけた人たちに対して、王様は「この最も小さい者の一人にしなかったのは、わたしにしてくれなかったことなのである。」(45節)と答えているのです。

このたとえ話では、私たちの毎日の生活のいろいろな小さな出来事の中にも、実は主イエス・キリストの愛が働いている、注がれ続けていることに気づくことがとても大切だと語りかけておられます。新島先生を「最も小さい者のひとり」と感じて、敢えてリスクもあることも覚悟しながら、新島先生を家族の一員として迎えたハーディー自身が、そのことをイエス様や神様への愛に応える行為としてとらえている様子も伺えます。神様から与えられたものを、神様、イエス様の愛に応えて、信仰によって神様にお返しすること、これは「受けるよりも与える方が幸いである。」という聖書の御言葉にもつながります。また、別の機会に取りあげて考えてみたいと思うのですが、世界的にも有名なカトリック教会の信徒・マザーテレサも、この聖句に心を揺さぶられながら、インドのカルカッタで、貧困や病気で行き場のない方々を招く場を創り、治療や支援をするとともに、主イエス・キリストの愛を伝えていく取り組みを長年行ってこられたことはよく知られている事実です。

先ほどのマタイによる福音書25章の聖句「この最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしたことなのである。」(マタイによる福音書25章40節)を心にとめてそれを実践したアメリカの父・ハーディーのことを覚えて、新島先生もまた自分自身を「最も小さい者の一人」「取るに足りないもの」「神様の前に価値のない存在である」と認識し、ハーディーの「隣人愛」に、神様の愛、主イエスによる救いを重ね合わせていたものと思われまます。新島先生もまたアメリカの父・ハーディーの「受けるよりも与える方が幸いである」というスピリットを受け継ぎ、クリスチャンとしての生き方のモデルとしてハーディーに倣って、同志社の創立、そして日本でのキリスト教宣教を実践していくことになるのです。そして、私たちにとって、「最も小さい者の一人」に対して行うとは具体的にどういうことなのか、また、実は「最も小さい者の一人」こそ自分自身ではないか、ということに気づくこともとても大切なことなのかもしれません。

それでは、新島先生にとってのアメリカの父・ハーディーはどのような歩みをしてきた人なのでしょう。

ハーディーは、少年の頃牧師を志してフィリップスアカデミーに入学。しかし、重い病気と経済的な困窮のため学業を断念。その後、19歳にして自力で商いを始め、クリスチャン実業家として、神のために富を蓄え、神に仕えるという決意を生涯にわたって貫きました。キリスト教の教育事業に熱意を示して、新島先生の学んだフィリップスアカデミー、アーモスト大学、アンドーバー神学校の理事を務めました。（1855年～1885年の31年間、アーモスト大学理事は、1855年～1877年の22年間）キリスト教宣教団体であった、アメリカンボードの運営委員、運営委員長も務め、その重責を果たしました。（1857年～1886年の30年間、運営委員会議長としては最後の13年間）1861年には、州の上院議員を1期務め、ボストン市長にも推薦されたことがあります、それを辞退しました。現在もボストンにあるCongregational Houseには、その貢献を覚えて、胸像も見ることができます。（同志社中学校や小学校のボストン研修では例年訪問しています。）ハーディーがアメリカンボードを通じて、特に新島先生を通じて日本の宣教とキリスト教主義教育のために果たした貢献は、はかりしれないものがあると言われています。



ボストンにある AMERICAN CONGREGATIONAL ASSOCIATION の建物の石板には、ハーディーさんのお名前があり、館内には胸像も含めて展示があります。国際交流プログラムの「BOSTON ハーバード・MIT 研修」でも、同中生が訪問しています。



A・ハーディーの肖像画

一方、キリスト教の社会福祉事業にも関心を持ち、所属していたオールド・サウス教会ともつながりのある、ボストン・シーメンズ・フレンド・ソサイエティの会長も20年近く務めていました。（1849年～71年）船員・海員たちに宿泊場所を提供し、そこでキリスト教を伝えて、いろいろな社会的な誘惑（道徳的、金銭的な誘惑など）から離れた生活を歩んでいくための活動を行っています。聖書やキリスト教関係の文書配布、読書室の設置、海員・船員のための銀行まであったようです。19世紀ボストンのピューリタニズムの社会的実践のモデルともいう事業と言われています。（新島襄全集 6巻：解題391～392ページ）新島先生が脱国し、ボストン港上陸（1865年7月20日）後、船主ハーディーとの劇的な出会いまでの約3か月間（10月11日まで）生活した場所



1845～1852年

1854年～



歴代の海員ホーム (The Sailor's Home)  
海員ホームの宣教師である元船長の A・バートレットは、ハーディー会長から依頼されて、新島先生が英文で「脱国の理由書」を作成するのをここで手伝ったと思われる。

も、海員ホームであったことを考えると、ハーディーがちょうど会長をしていたソサイエティ活動の一環であった場所で、新島先生が路頭に迷わず、いのちを守られたこととなります。さらに、このソサイエティには、海員、船員のための礼拝も行われていて、船長としての経験のあるパートレットが伝道師として働きをしていました。最近の研究によれば、ハーディーが新島先生を受け入れる決心をした「新島先生の脱国の手記」も、この先生の手助けがあって書くことができたのではないかと推測されています。（「ピーコンヒルの小径」新島襄を語る（8）本井康博125ページ以下参照）これらのことを考えると、すべてのことが「不思議な糸」のようにつながっていて、神様の見守りと導きというのは、人間の想像をはるかに超えていることに気づかされます。そして神様の御守りと導き（「摂理」Providence）を新島先生は目の当たりに実体験したのですが、150年後に生きる私たちも追体験することができるのです。



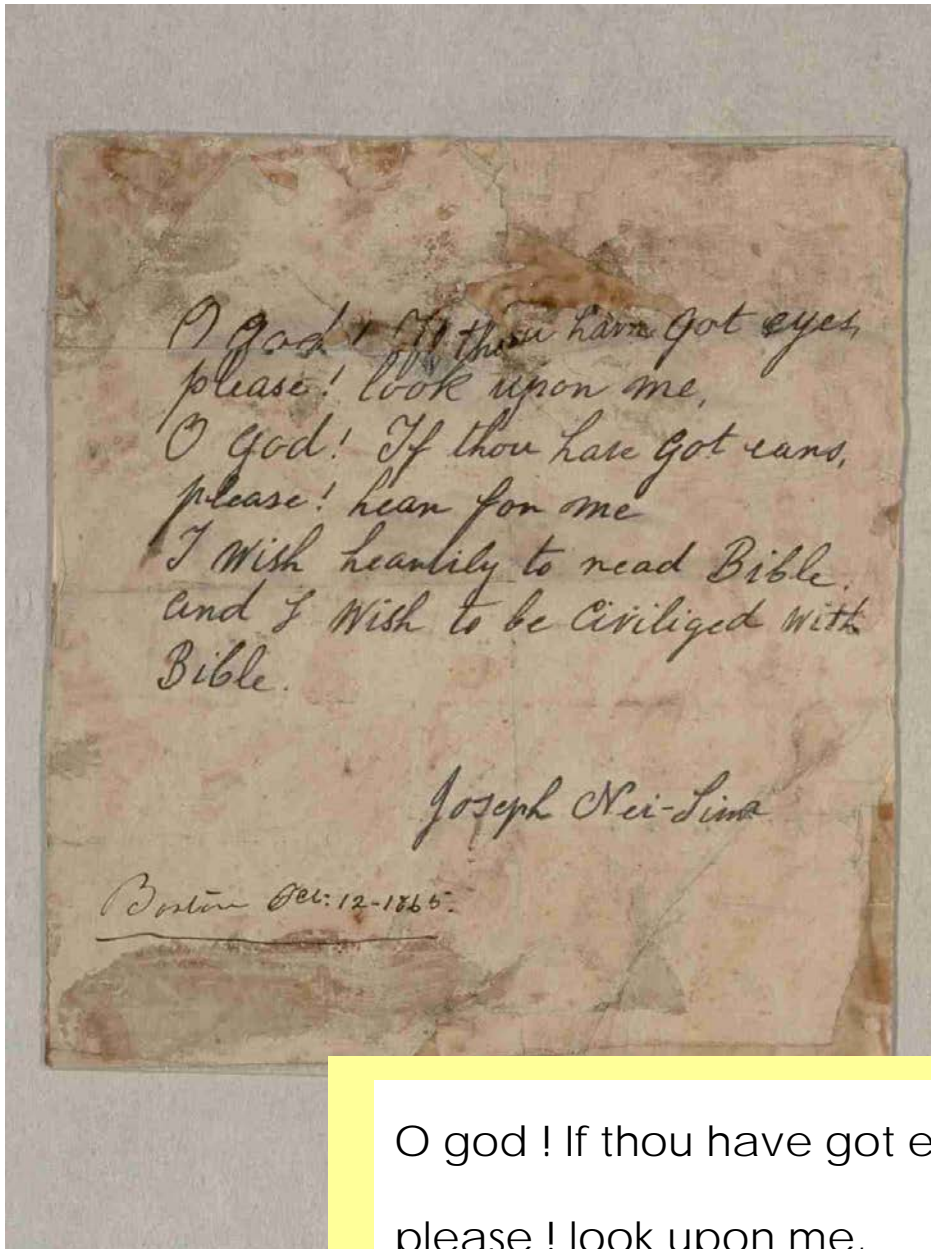
A・パートレット船長

ハーディーは、1887年8月7日に召天されます。ちょっとした怪我がもとで、敗血症で亡くなりました。10月28日には、ハーディーが所属したオールド・サウス教会で追悼礼拝が行われ、11月20日には、同志社の追悼礼拝が、新島先生の感動的な記念説教で行われました。（「新島襄全集」2巻、408～418ページ、同志社編「新島襄自伝」岩波文庫：384～389ページ：「アメリカの父」ハーディー追悼説教）次回は、この追悼説教などから、さらにハーディーと新島先生のことを学んでいきたいと思えます。

7月に入りました。今、直面している感染症も先の予測も非常に難しい状況があり、さまざまな困難の中におられる方々もあるかと思えます。神様の見守りと導き（「摂理」Providence）を祈るとともに、「私たちの目では見ることができない」神様からの語りかけ、小さな声にも心の耳を傾けながら、人間の思いや計画をはるかに超えた神様の導き（「摂理」Providence）を信頼しつつ、主イエス様の愛を心に満たしながら、「最も小さい人たちは誰のことで私たちは何を受け行ってきたか、何を受け行えるのかを考えながら、この1週間もともに歩んでいきましょう。

**「はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、**

**わたしにしてくれたことなのである。」**（マタイによる福音書25章40節）



新島先生が書いた  
英文手紙に  
チャレンジしよう!  
<英文手紙 challenge>

“O God!”  
新島先生が、ボストンの  
海員ホームで書いた、と  
思われる英文メモです。  
英語、日本語を問わず、  
新島先生が作成した  
初めてのキリスト教的  
文書（祈禱文）です。

生徒の皆さんも  
読んでみましょう!

O god ! If thou have got eyes,  
please ! look upon me,

O god ! If thou have ears,  
please ! hear for me.

I wish heartily to read Bible

and I wish to be civilig [z] ed with

Bible.

Joseph Nei-Sima

Boston Oct 12,1865

- \* 「thou」 “you あなたは” の古めかしい言い方
- \* 「heartily」 “心から”
- \* 「be civilized」 “教養・知識を身に付ける”